



おおみなみ

笑顔あふれる 大南

～自分もよく、相手もよく、みんなもよく～



令和6年度
練馬区立大泉南小学校
校長 田村 亜紀子
令和6年 5月31日
Tel.03-3922-1371

「ふれあい（いじめ防止強化）月間」

校長 田村 亜紀子

5月25日（土）に開催した「65周年記念運動会」には、多くの保護者・地域の方々にお越しいただき、子供たちのがんばる姿をご覧いただくことができました。子供たちからは「楽しかった。」「がんばった。」「（上級生の姿を見て）すごい！」といった声がたくさん挙がりました。保護者の皆様からも、我が子はもちろん、他の学年の姿を見て、学年ごとの成長を感じていただいている方も多かったようです。何より、6年生が最上級生として、運動会を支える姿が印象的でした。この運動会で身に付いた力を、日常の生活に生かしながら、よりよい学級や学校生活となるよう、支援していきます。

毎年、6月・11月・2月は「ふれあい（いじめ防止強化）月間」です。「いじめ」は、相手の心や体を傷つけることであり、その人の人権を損害することであり、あってはならない行為です。言葉では分かっている、いじめはなくなるのはなぜでしょうか。

昨年度の6月の巻頭言では、「いじめの問題を考えるときに必要なのは『想像力』である」と書きました。「人の感じ方は、その人のこれまでの経験や環境で、その度合いは異なるので、一律に『こちらが良い』とすることは、意味がない。その価値観が育つまでに至ったプロセス（人生）があり、その考えを押しつけることはできない。」ことであり、「自分とは違うことについても、想像力を働かせて理解する力」があるかどうかが大切だとまとめました。

今年度も、同じことですが、大切なことなので、繰り返し伝えていきたいと思えます。いじめられた人は深く傷つき、つらい気持ちになってしまいます。その気持ちは、本人しか分かりません。「私は、これくらいは平気だけど…」という人もいますが、それは、あなたの感じ方であり、本人の想いとは異なることを理解することが大切です。「自分は大丈夫だけど、相手も大丈夫かな？」と想像してみましょう。一緒に楽しんでいる友達が、相手は笑っていても、「本当に楽しんでいるのかな？」と想像してみましょう。さらには、同じ教室や学年などの中で、「あれ、あの子、楽しそうかな？」と目を向けて想像してみましょう。その「想像力」が働いたとき、その人に寄り添い、「自分はどうするか」を考えて行動することができるはずです。しかし、人は未熟です。自分では気が付かないこともあるのです。だからこそ、周りの人が「大丈夫？」と気付いてあげることも大切です。時には「それはダメ！」と、教えてあげることも必要です。

「いじめ」はあってはならないものです。悲しいことに、それでもいじめは起きてしまうことは現実としてあります。私たち大人も、子供たち同士も、いじめをしない・させない・見過ごさないためにできることはたくさんあります。友達の心の苦しさを気付ける人たちがあふれば、きっと、「いじめ」という言葉そのものがなくなる世の中になるのではないのでしょうか。

6月の生活目標 言葉づかいに気を付けよう